

統 合 分 野
在 宅 看 護 論

在宅看護論のねらい

在宅看護は疾病や障害の予防活動や、福祉的な生活支援活動も内包する、地域での多領域、広範囲にわたって提供される看護である。具体的には、健康回復のためのリハビリテーションや悪化防止のための看護を中心に、終末期の看護までの医療的意味合いの中での、質の高い看護活動が必要となる。また、臨床から在宅へのケアマネジメントや継続看護、地域における人々のあたりまえの生活事象の中にある意義や価値観に気づき、人間としての存在や生活の奥深さを理解する。さらに自己決定や生活の再構築を支援していく方法を学習する。

在宅における看護の対象は、療養者のみではなく、家族そのものを一単位として捉え、支援していく必要がある。

在宅看護の特徴を理解し実践するためには、既習の基礎知識・技術・態度を統合し、生活の場における在宅看護をイメージ化できるように主体的に学習することが必要である。基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・Ⅱで学習した内容と関連させながら、健康状態に応じた看護実践ができるように学習する。

「在宅看護概論」

看護師が捉えるべき対象と“生活”、“生活の場”および、在宅看護の特徴や在宅看護を支える社会資源を学ぶ。さらに、地域包括ケアシステムと訪問看護の概要、訪問看護師の役割について学ぶ。

「療養者の健康状態に応じた看護」

在宅療養者の状態・状況の多様性に応じた看護を学び、今後の病状・病態の変化の予測を踏まえて在宅療養者の自立・自律を促し、生活の質を維持・向上させていくことを学ぶ。

「在宅看護技術」

在宅で健康障害をもちながら療養している人の健康段階・発達段階に応じた観察力、的確な判断力を身につけるための基礎知識を学ぶ。在宅看護に必要な日常生活援助・医療処置の方法・技術を学び、生活の場における物品の工夫や方法を考える。

校内実習では、訪問マナーと“清潔ケア” “移動介助” “栄養ケア” “呼吸ケア”の方法を学ぶ。また、訪問看護に求められる確かな知識・判断力・予測力、主体性を身につけられるように講義において、意図的にグループワークやロールプレイを行い、主体的に考えて、実践できる能力を養う。

「在宅看護過程」

在宅看護の特徴が理解できるような事例を提示し、在宅療養者の価値観・人生観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用に着目した看護展開を学ぶ。

「在宅看護論実習」

看護の場の多様性と継続性を学び、人間のライフサイクルにおける生活、社会の動向および疾病構造、疾病と看護との関連性を統合しながら在宅看護を学ぶ。また、訪問看護ステーション・通所施設などの実習を通して、在宅で療養している療養者および家族を対象とした看護、地域における在宅療養者の看護の実際を学ぶ。

在 宅 看 護 論

【目 的】

地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害をもちながら生活する人々と家族を理解し、在宅療養における看護の基本を学ぶ。

【目 標】

- 1 在宅看護の概念と変遷について理解できる。
- 2 地域包括ケアシステムの概要をふまえ、在宅看護の活動の場と役割について理解できる。
- 3 在宅看護の特徴をふまえ、療養状態や状況に合わせた看護および継続看護について理解できる。
- 4 訪問看護の展開方法と訪問時の基礎的技術が理解できる。
- 5 在宅療養を支える社会資源の活用および多職種との連携の必要性が理解できる。

【構成および計画】

<講義>

科 目	単位数	時間数	学年別計画時間		
			1年	2年	3年
在宅看護概論	1	15	1 (15)		
在宅療養者の健康状態に応じた看護	1	30		1 (30)	
在宅看護技術	1	30		1 (30)	
在宅看護過程	1	15		1 (15)	
合 計	4	90	1 (15)	3 (75)	

<臨地実習>

科 目	実 習 内 容	単位(時間)	時 期
在宅看護論実習	在宅で療養している療養者、家族を対象とした看護 地域における在宅療養者の看護	2 (90)	2~3年次
合 計		2単位 (90時間)	

科目 在宅看護概論 1単位 (15時間)

科目目標：在宅看護の概念を踏まえ、在宅看護の対象と看護師の役割を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
在宅看護の必要性の背景と看護の対象	2	1 在宅看護が必要とされる背景と根拠が理解できる 2 在宅看護の対象と必要な援助が理解できる	1 在宅看護とは 2 在宅看護が必要とされる社会的背景 1) 人口構成の変化 2) 国民の価値観 3) 療養の場 4) 社会保障費 (医療費・介護費) 3 在宅医療・介護と制度 1) 在宅医療・介護に関するしくみ 2) 疾病や障害を持つ人の社会参加 *介護保険は老年看護学で学ぶ 1 在宅看護の対象者と生活 1) 在宅看護の対象 (1) 疾病や障害を持つ人と家族 2) 対象者の生活 (1) 生活の場と種類、生活様式 3) 在宅看護の提供方法 (1) 外来看護、訪問看護 (2) 入所施設・通所施設での看護	専任教員
在宅看護の目的・役割と機能	8	在宅看護の目的、役割と機能について理解できる	1 自立・自律支援と QOL 向上の支援 1) QOL の理解、セルフケア 2) 社会参加への援助 2 病状・病態の予測と予防 1) ヘルスアセスメント 2) 病状経過の予測 3 家族への支援 1) 家族のアセスメント 2) 家族関係の調整・ケア方法の指導 3) 介護者の健康・レスパイトケア 4 地域包括ケアシステムにおける多職種連携 1) 地域包括ケア 2) 多職種との連携・協働 3) チームケアにおける看護の役割 5 療養の場の移行に伴う看護 1) 入退院に関する患者・家族の意思決定支援 2) 退院支援・退院調整のプロセス、しくみ 3) 地域連携パス 4) 外来・地域連携部門と看看連携 6 ケアマネジメント・ケースマネジメント 1) 概念、過程、実際 2) 社会資源の理解と活用	

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
訪問看護の 概要	4	訪問看護の概要に ついて理解できる	<p>7 在宅における倫理的課題</p> <p>1)自己決定の支援 2)対象者・サービス提供者の権利擁護 3)虐待の防止</p> <p>1 訪問看護制度の理解 2 訪問看護制度の法的枠組み 3 訪問看護サービスのしくみと提供</p>	
試験	1			

科目 在宅療養者の健康状態に応じた看護 1単位 (30時間)

科目目標：在宅で療養する対象の状態に応じた看護と社会資源活用の基本を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
安心した在宅生活を支える看護	6	安心した在宅生活に必要な看護が理解できる	1 安心した生活の保障 1) 24時間の連絡体制、相談・訪問 2) 生活の中での安全管理 (1) 家屋環境の整備、転倒転落の防止 (2) 誤嚥・窒息の防止、熱傷・凍傷の防止 (3) 熱中症の防止 (4) 閉じこもりの防止 (5) 独居高齢者等の火災防止 2) 在宅での感染予防対策 3) 服薬管理 (1) 服薬状況の把握 (2) 医師及び薬剤師との連携 (3) 外来通院中の在宅療養者に対するケア (麻薬投与・外来化学療法) (4) 放射線治療・検査に関するケア	専任教員
在宅で療養する対象の状態に応じた看護	6	1 日常生活活動の低下予防及び疾病の再発予防が必要な療養者の看護が理解できる	1 日常生活活動低下予防・疾病再発予防が必要な対象の看護 1) 状態のアセスメントと環境整備 2) 療養者・家族のセルフマネジメント力を維持・高める支援 3) 異常の早期発見と対応 4) 社会資源の活用・調整	
	6	2 在宅における慢性期にある療養者の看護が理解できる	1 難病や認知症で療養する対象の看護 1) 状態のアセスメントと状態に合わせた調整 2) 難病療養者・家族のセルフマネジメント力を高める支援 3) 急性増悪の早期発見と状態に合わせた対応 4) 社会資源の活用・調整	
	2		2 重症心身障害児(者)の生活を整える看護	
	4	3 在宅における回復期(リハビリテーション期)にある療養者の看護が理解できる	1 リハビリテーションが必要な対象の看護 1) 機能障害と在宅での生活のアセスメント 2) 居住環境のアセスメント 3) 在宅リハビリテーション 4) 合併症の予防と対応 5) 社会資源の活用・調整	

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
	4	4 在宅における終末期にある療養者の看護が理解できる	1 終末期を迎えた対象の看護 1) 疾病の特徴と療養の経過 2) 症状マネジメント 3) 終末期緩和ケアの実際 4) 看取りの看護 5) 家族へのグリーフケア	
まとめ・試験	2			

科目 在宅看護技術 1単位 (30時間)

科目目標：在宅で療養する対象のアセスメントをもとに在宅における生活支援技術を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
在宅看護基本 技術	4②	在宅における基本 技術を理解できる	1 基本技術 1) コミュニケーション技術 2) 療養者、家族への相談・指導技術 3) 訪問時のマナー <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 校内実習〈2H〉 事例をもとにアセスメントし、疾 患に関連した状態観察を行い訪問マ ナーについてロールプレイを行う </div>	専任教員
在宅における 日常生活支援 技術	24⑩	在宅における日常 生活支援技術(日常 生活援助と医療管 理)が理解できる	1 清潔のアセスメントと援助 1) 清潔のアセスメント 2) 在宅での清潔方法の種類と方法 2 活動・移動のアセスメントと援助 1) ADL・IADLのアセスメント 2) 住環境のアセスメント 3) 自立度に応じた援助 (1)ADL・IADL、生活拡大、安全の視点 4) 自立歩行に必要な筋力評価と強化方法 5) 移動補助具の種類と選択方法 6) 移動時の安全確保 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 校内実習〈4H〉 在宅における清潔ケアの工夫・移 動の援助 </div> 3 排泄のアセスメントと援助 1) 排泄障害のアセスメント 2) 排泄補助用具の種類と選択方法 3) 尿失禁の予防と援助 4) 便失禁への援助 5) 便秘の予防と援助 6) 排尿障害と膀胱留置カテーテルの管理 (1) 対象者 (2) 合併症の予防 (3) 在宅における安全管理と支援 *ストーマケアは成人看護学で学ぶ 4 食事のアセスメントと援助 1) 食事摂取能力のアセスメント 2) 摂食・嚥下能力障害時のアセスメント 3) 食事内容の選択、食材の調達方法の援助 4) 栄養を補う食品の種類と選択方法の援助 5) 摂食・嚥下障害時の援助 6) 口腔ケア r7) 経管栄養法の管理(胃瘻・腸瘻) (1) 対象者 (2) 栄養の種類と特徴	看護師

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
			<p>(3) 栄養評価 (4) 合併症の予防 (5) 在宅における安全管理と支援 *経鼻経管栄養法は老年看護学で学ぶ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>校内実習 〈4H〉 嚥下機能が低下した人の援助 〈2H〉 フィジカルアセスメントを含んだ観察 経管栄養法（胃瘻）の管理 〈2H〉</p> </div> <p>8) 中心静脈栄養法（HPN）の管理 (1) 対象者 (2) 栄養剤の注入方法と栄養評価 (3) 合併症予防と安全管理・支援</p> <p>5 在宅における褥瘡の管理（評価） 1) 褥瘡発生のリスクアセスメント・発生予防 2) 褥瘡のアセスメントと処置 3) 除圧・体位変換に関する器具の種類と選択 4) 在宅における安全管理と支援 *褥瘡予防ケアは老年看護学で学ぶ</p> <p>6 呼吸・循環のアセスメントと援助 1) ガス交換障害と在宅酸素療法の管理 (1) 在宅酸素療法法の機械の種類 (2) 合併症予防と在宅における安全管理と支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>校内実習 〈2H〉 在宅酸素療法（HOT の機器） } 〈2H〉 在宅人工呼吸器管理 }</p> </div> <p>2) 換気障害と在宅人工呼吸器の管理 (1) 在宅人工呼吸器の原理・構造 (2) 気道浄化のケア (3) 合併症予防と在宅における安全管理と支援 (4) 気管切開部の管理・気管内吸引</p>	
まとめ・試験	2			

科目 在宅看護過程 1単位 (15時間)

科目目標：事例展開を通して在宅看護の特徴を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
在宅事例展開	14	<p>1 在宅看護に必要な情報収集が理解できる</p> <p>2 在宅看護アセスメントの特徴が理解できる</p> <p>3 在宅看護計画の立案が理解できる</p> <p>4 在宅看護の評価の視点が理解できる</p>	<p>1 情報収集の視点</p> <p>1) 療養者の疾患の状態</p> <p>2) 介護者・家族の状態</p> <p>3) 療養者・家族一人ひとりの価値観や人生観の尊重</p> <p>4) 療養者、家族が望む生活の実現</p> <p>5) 意思決定の支援</p> <p>6) セルフケアへの援助</p> <p>7) 家族の介護力</p> <p>8) 療養者と家族の関係</p> <p>9) 住環境と経済状態</p> <p>10) 活用している社会資源</p> <p>1 在宅看護アセスメントの特徴</p> <p>1) 療養者のアセスメント</p> <p>2) 家族、介護者のアセスメント</p> <p>3) 住環境のアセスメント</p> <p>4) 社会資源のアセスメント</p> <p>5) 生活療養図の作成</p> <p>2 看護問題の明確化</p> <p>1 在宅看護計画の立案</p> <p>1) 療養者、家族を対象とした成果</p> <p>2) 看護計画</p> <p>(1) 訪問間隔、訪問時間の調整</p> <p>(2) 日常生活援助、医療処置</p> <p>(3) 療養者と家族への指導</p> <p>(4) 社会資源の活用への支援</p> <p>(5) 緊急時の対応</p> <p>3) 看護計画立案時の留意点</p> <p>(1) 療養者、家族の選択と合意</p> <p>(2) 自立に向けた援助</p> <p>(3) 経済性</p> <p>1 評価・修正</p> <p>1) 長期的視点での評価の必要性</p> <p>2) 療養者、家族の視点の評価</p> <p>3) 計画の修正</p>	専任教員
試験	1			